



# 上川井だより

令和4年4月28日  
横浜市立上川井小学校  
校長 山崎真紀子

## 5月号

### この「1」なあに？

風薫る爽やかな季節となりました。校庭の鳥たちのさえずりが、明るい希望を示すように聞こえます。今年度は、少しずつ、学校の教育活動を日常に戻していけたらと願っております。

長らく自粛生活の中で、保護者の皆様、地域の皆様も日々ご苦勞を重ねていらっしゃると思いますが、どうぞ、今年度もご理解、ご協力をお願いいたします。

さて、1年生も入学して1か月がたち、ひらがなや数字の勉強が進んでいます。先日、教室を訪ねると、「1」という数字の写真が大きくTVモニターに映し出されていました。

どうやら、学校探検をする中で、どんなところに数字が書かれているか、話し合っているようです。「これは、階段のところにあつたから、1階って意味だよ。」と誰かが言うと、「図書室の本棚にも何か数字が書いてあつたよ。」と別の子が気づいたことを言います。

「どんな意味の数字かどうしたらわかりますか。」と担任が質問すると、「聞いたらいいんじゃない?」「誰に聞こうか。」「校長先生に聞けばいいよ。」「司書の先生に聞くといいかな。」と、数字の謎を解決する方法について意見を出し合っています。単に、0から9の数字の書き方を教わり書けるようにするのではなく、数字が身の回りでどのように使われ、役に立っているか気づかせることで、数で表す良さや量感の理解を促す学習です。

今年度、本校で重点的に取り組む学びは、子どもたちの「知りたい」「やりたい」「伝えたい」という思いを引き出すことです。ある研究者の調べでは、人は、聞いたことは9割忘れ、見たことは8割忘れ、話し合ったときは6割忘れるが、体験したことは8割、人に教えたときは9割覚えているというものがあります。思考するためには、基礎的な知識がある程度必要であることは言うまでもありませんが、人に教わるだけでは、知識さえも定着することが難しいということがわかります。

しかし、自ら「知りたい」「やりたい」と思って調べたことや体験したことを誰かに「伝えたい」という思いで行動できたとき、きっとその学びは子どもたちの記憶に残り、考える力を伸ばすのではないのでしょうか。AI技術の革新によって、世の中の職業も大きく変わると予測されています。折しも、世界的なパンデミックや自然災害によって、先の見通しを持つことが難しい時代でもあります。そんな時代を生きていく子どもたちに、考える力を養い、未来を切り開くチャレンジ精神を培うために、日常の中でたくさんの「知りたい」「やりたい」を見つけ、人とつながる中で「伝えたい」思いを育てていけたらと思います。次は、どんな「知りたい」「やりたい」を見つけられるか、楽しみです。